

二〇一六年 三月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

「の身に受けているいのちは限りなくつながり」と

限りない関わりのおえに賜たまわっている

宮城みやぎ顛

三月十一日は、東日本大震災が起こった日です。震災から五年が経ちますが、震災後によく耳にしたのは、「人とのつながり」という言葉でした。そのとき、被災された方たちだけでなく、多くの人たちがそのつながりを再確認させられました。私たちは、日常生活のなかで、さまざまな人とのつながりを持ち、そして助けられ支えられているのです。そのつながりは目に見えるものではないので、なかなかそのことに気づけていない人も多いのではないのでしょうか。

仏教では、こうしたつながりを「縁」という言葉で表します。すべての物事が互いに関わり合って存在しているということです。数えきれない不思議な縁によって、私たちは生かされ、このいのちがあるということを、あらためて考えてみましょう。

今月の聖語

すべてのいのちあるものに 限りない慈あはれしみの心を持つべきである。

『スッタニパータ』

三月になって暖かくなり、草木も芽吹き始めて春らしくなりました。また、冬ごもりしていた虫たちも、冬眠から目覚める季節です。お釈迦様はそんな草木や虫たちを含めて、すべてのいのちあるものを慈しむように言われています。お釈迦さまは、殺生を禁じて、むやみに生き物を殺さないように教えています。

私たちは故意ではなくても、毛嫌いして虫のいのちを奪い、草や花を踏んでしまうことさえあります。また、食事をするときでも、肉や魚など多くのいのちをいただきます。だから、食べる前に「いただきます」という感謝の言葉を言うのです。毎日たくさんのいのちをいただいで生かされていることを理解すれば、自然と慈しみの心を持つことができるでしょう。